



2026年5月15日

各位

会社名 株式会社 フ コ ク
代表者 代表取締役社長 大城 郁男
コード番号 5185・東証プライム
問合せ先 取締役執行役員 CFO
松岡 善右
(TEL 048-615-4400)

中期経営計画最終年度の業績目標「取り下げ」に関するお知らせ

(1) 中期経営計画の業績目標の「取り下げ」

当社は、2023年6月30日に2027年3月期を最終年度とする新中期経営計画2026を公表し、その業績目標の達成に向けて取り組んでまいりました。

しかしながら、2027年3月期の通期連結業績予想については、新中期経営計画2026の目標値と大幅に乖離した値となっております。

新中期経営計画2026は、自動車産業におけるBEV化進展やグローバル需要回復、半導体需要の拡大を前提としていましたが、BEV化市場の停滞、OEM各社の生産変動、原材料の高止まり等、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しており、内部努力だけでは対処しきれない状況下にあります。この変化を踏まえると現在の延長線上での成長には一定の見直しが必要と考えております。

このため、当社は収益の拡大と資本効率の向上を最優先とし、その実現に向けて事業運営を強化します。2026年度を「変革フェーズ」と位置づけ、将来成長に向けた経営改革をスタートしました。

これに伴い、現中期経営計画の数値目標を一旦取り下げることにしました。

新中期経営計画2026の最終年度目標値（公表時）及び2027年3月期通期連結業績予想

	目標値（公表時） （2023年6月）	通期連結業績予想 （2026年5月）	差
売上高	1,200億円	850億円	△350億円
営業利益率	8.0%	3.9%	△4.1%
ROE	12.0%	6.0%	△6.0%

(2) 次の成長に向けて

今後の先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、景気の回復は続く一方、米国の通商政策の動向や物価上昇の継続による景気の下振れリスク、中東情勢の緊迫化・不安定化に伴う地政学リスクの高まりや、エネルギー・原材料価格の変動によるサプライチェーンへの負の影響を注視する必要があるなど、先行きの不透明感が一段と高まっております。

自動車業界においては、地域差はあるものの生産台数の回復基調が底堅く続くものと見ておりますが、BEVを含む電気自動車化の動向については、中長期的には普及が進むことが想定されるものの、調整局面を迎えていることから、今後の市場動向についても慎重に見極める必要があります。

このような状況下、前述のとおり、2026年度を「変革フェーズ」と位置づけ、経営が強くコミットし変革に取り組んでまいります。具体的には、以下の取組を実行します。

「稼ぐ力の更なる向上」赤字・不採算製品の削減、原価低減を進めます。

「市場戦略強化」当社の製品・市場の強みが活かせる市場への取組を強化します。

「モノづくり力強化」開発・生産・製造プロセスを改革し、将来型工法を実現します。

「M&Aも活用した新規事業の立ち上げ」M&Aも活用し新しい事業の創出に取り組めます。

2026年度の変革を踏まえ、2027年度を初年度とする次期中期経営計画では、稼ぐ力の強化を軸に収益性・資本効率を高め、持続的な成長と企業価値の向上を目指します。

また、長期的な視点としては、当社独自のコア技術で高付加価値商品やソリューションを提供することで、サステナブルな社会の実現に貢献できる“心から愛される企業”を目指してまいります。

上記の予想は、現時点で入手された情報に基づき判断したものであり、実際の業績は様々な要因により、上記予想と異なる可能性があります。

以上